

これが『本部』反動集団の実態だ!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

組合の力でお前なんか首にしてやる 3・8適用を申し入れてやるぞ

全国の動労組合員のみなさん。動労「本部」反動集団は、全国大会に狩り出し、さらしものにした「千葉の代表七名」のうち特に悪質裏切り分子として連日職場で糾弾されている津田沼支部の島田、斉藤(吉)等を出・退勤時に防衛するために、連日五〇〇名が、津田沼電車区に押しかけ、動労千葉の掲示物をはがし、組合員に暴行を加えるなど全く許しがたい暴挙を行っています。わが動労千葉は、こうした「本部」反動分子に対して、日々怒りをかりたて、毅然として対決しています。

しかし、彼ら反動分子は、わが動労千葉の職場に押し入ってくればくるほど、職場の団結はより強固になり、裏切り分子への怒りの糾弾行動はマル生闘争時以上に燃えあがる現実に直面し、増々あせりかられてデッチ上げとデマ宣伝をくりかえしているのが実態です。

さらに、国鉄当局や警察、裁判所など動労千葉破壊のために使えるものは何んでも利用するとうことを露骨に打ち出しています。

こればかりか、4・17津田沼支部長を頭がい骨折に至らしめた襲撃事件を居直り、こうした労働組合にあるまじき極反動行為を「必要とあらば他労組にも行う、これが動労の方針だ」等と言いつつ切っています。まさにこの一言こそ動労の変質と反動的セクト支配を如実にあらわしたといえます。このままで動労はいいのでしょうか。

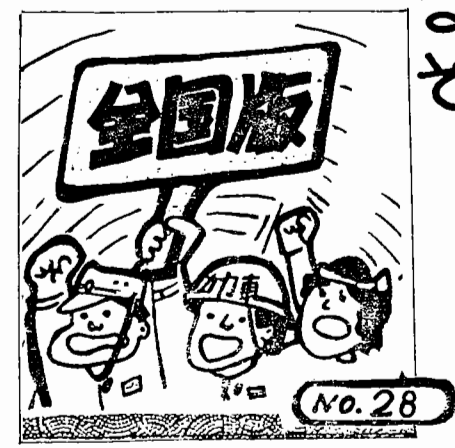
なぐる、けるなどの暴行をはたらく
「本部」反動暴力集団 八月二五日

八月二五日、塩谷「本部」特執・佐々木を先頭に三〇名が島田以下の裏切り分子の防衛のため、津田沼支部に押し入ってきたが、一時ごろから約四〇分にはわたって支部活動家の吉岡君と田中君をそれぞれ個別に一五〜一六名づつで、停留中の電車に二人を押しつけて、彼ら特有のやり方で外からは見えないようにとりかこみ、なぐる、ける、こづくなどの暴行のかぎりを行なったのです。

これを見た支部役員がこの暴力集団からはなれたところにて塩谷特執にすぐ中止させるようにさせて、はじめて二人を解放するという暴行事件が起りました。

鉄労も顔まけの「本部」反動集団!
八月二五日

彼らは、津田沼支部の二人の活動家をとりにかこんでなぐる、けるの暴行をはたらいたばかりでな



く、さらに、もはや、労働組合にあるまじき暴言をはきかけてきました。

・佐々木(「本部」副青年部長)「お前がいるから職場が混乱するのだ。ここから叩き出してやる。国鉄をクビにしてやる。」

・津田沼支部組合員「お前に人事権があるのか。」

・佐々木「組合の力でクビにしてやる。三・八適用を申し入れてやる。4・17襲撃は当然のことだ。」

この日は、たまたま佐々木(某)がこのような暴言をはいたのですが、この間の『日刊』でも再三にわたって明らかにしてきたように国鉄当局や権力に訴えてでも、動労千葉を破壊しようとしていることはもはや明らかです。

「本部」派津田沼支部結成の動きを完全に粉碎!

動労「本部」青年部は、八月二五日〜八月三日までの七日間、全国大会後、はじめて全国動員をかけ動労千葉破壊の突破口として島田を先頭とする裏切り分子をかき集めて、なんとか「本部」派津田沼支部の旗上げをデッチ上げようとしてきたが、動労千葉は連日の闘いをもって彼らを一步もよせつけず、「本部」派支部結成の動きを完全に粉碎してきました。

特に、八月三〇日には、裏切り分子糾弾集会を全支部から約一七〇名を結集して 圧倒的に勝ちとりました。あせった彼らは、三一日も津田沼支部に押し入り、二人の津田沼組合員を検修庫のピットにつき落とすという暴行をはたらいたのです。われわれは、こうした連日にわたる「本部」反動集団の暴力的襲撃を全組合員の団結と統制をもって断固としてはねのけてきました。

「本部」反動集団の暴力的襲撃を許さないぞ! 裏切り分子を許さないぞ! 動労千葉は、全国の仲間と動労大改革を貫徹するぞ!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!